



2020年3月期 第1四半期決算説明補助資料

2019年8月13日

社会を変革する **I T イ ノ ベ ー タ**

本資料において、2018年3月期以前の業績情報は、未上場につき参考情報として掲載しております。

株式会社 **SIG**

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
さまざまな要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

第1四半期累計業績・通期計画サマリー

- 当第1四半期累計の売上は975百万円、前年同期比で+4.1%の増収となり、上期計画に対する進捗率は45.7%となりました。
- 当第1四半期累計の経常利益は31百万円、前年同期比で+7.9%の増益となりました。
なお、2020年3月期第1四半期には市場変更に伴い発生した上場関連費用11百万円を計上しています。
- 当第1四半期累計の四半期純利益は21百万円、前年同期比で+8.1%となりました。

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期					
	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比	上期計画	上期進捗率	下期計画	通期計画
売上高	937	975	4.1%	2,133	45.7%	2,295	4,428
システム開発	747	763	2.1%	1,688	45.2%	1,815	3,503
インフラ・セキュリティ	189	212	12.1%	445	47.6%	479	925
営業利益	46	42	△8.6%	146	29.1%	211	358
営業利益率	5.0%	4.4%	—	6.9%	—	9.2%	8.1%
経常利益	29	31	7.9%	144	22.1%	208	353
当期純利益	19	21	8.1%	96	21.9%	156	253

システム開発

前第1四半期累計：7.5億円 → 当第1四半期累計：7.6億円（前年同期比+1.8%）

- 公共系 : 政令都市向けシステム開発への要員拡充には至らなかったものの、国保・年金系の安定受注に加え、新規の官公庁向けシステム開発が今期スタート
- 製造系 : 上位システムの受注は伸び悩んだものの、電子基板実装装置(マシン側)の新機種開発の受注は計画通り
- エネルギー系 : 前期第3四半期から回復基調にある託送関連システムの体制を維持、僅かながらも新規開発部門へも参入
- サービス系 : 仮想移動体通信事業者の開発支援を軸に、ECサイト・予約サイト等、Webアプリケーション開発の需要が拡大
- 金融系 : 保険・証券系システム開発支援など需要に対する要員拡充に不足はあるものの、計画値を上回る業績で着地

これらの主要とする各分野において計画通り堅調な推移を示した結果、当第1四半期の業績は対前期比で売上が増加いたしました。

インフラ・セキュリティサービス

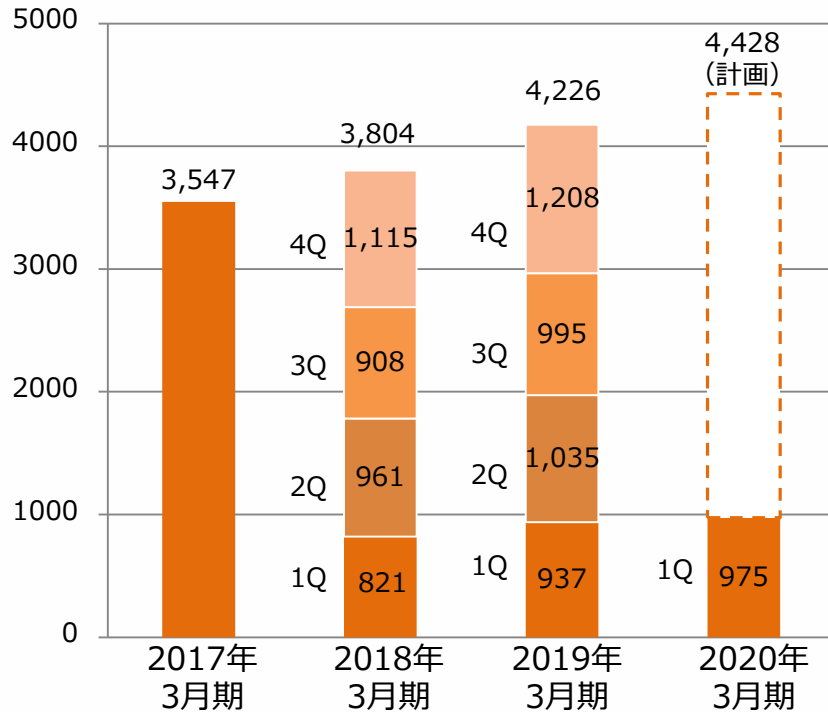
前第1四半期累計：1.9億円 → 当第1四半期累計：2.1億円（前年同期比+13.1%）

- 公共系 : 防衛・防災系にて要員拡充、独立行政法人向け案件から官公庁向けインフラ業務支援案件へ要員シフトして今期スタート、計画値を上回る業績で着地
- 金融系 : 損保・証券系インフラ業務関連系案件に要員を集中するも、公共系から金融系への要員移動を第2四半期以降としたことから、僅かながらも計画値を下振れて着地
- セキュリティ : 脆弱性診断業務及び大手SIer向けセキュリティ商材に関するインフラ業務支援は、計画通り堅調に推移

これらの主要とする分野の他、仮想移動体通信事業等のサービス系のインフラ業務支援やAWS等のクラウド構築・運用、ビッグデータ向けBIツールの環境構築等の需要により、第1四半期の業績は対前期比で売上が増加いたしました。

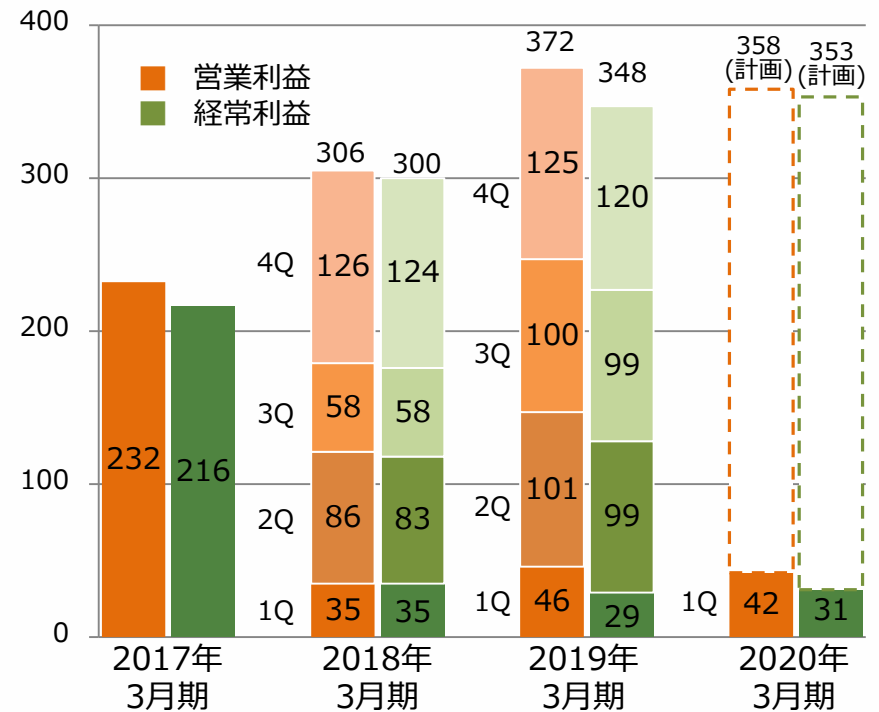
売上高

(単位：百万円)

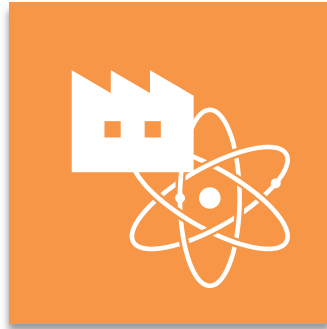


営業利益・経常利益

(単位：百万円)



※2018年3月期以前の数値は、参考数値として掲載しています。
 ※2019年3月期第1四半期には一時的費用である上場関連費用を16百万円計上しています。
 ※2020年3月期第1四半期には一時的費用である上場関連費用を11百万円計上しています。
 ※当社の業績は、契約の関係で、第2・第4四半期に売上が集中する傾向があります。



AI・IoT 事業推進

- スマートデバイス
を活用したAI・IoT
技術による業務
効率化事業への注力



クラウド及び セキュリティ 事業推進

- セキュリティ
(クラウド・ネットワーク)
環境設計/構築/
運用管理
- 脆弱性診断サービスの
充実



グローバル 人材の 採用と活用

- 日本国内の地域採用
に加え、海外人材の
積極的な採用と活用

当社のスマートファクトリーへの取組み

産業 トレンド

- 人手不足解消のため、自動化/省人化ニーズが拡大
- 今後は、5Gなど高度な無線技術を用いたデータ取得が可能になり、AI、IoTの利活用場面が増加



スマートファクトリー化の技術・知識向上による 新たなビジネスの創出



主な 取組み

- 長年にわたり現場で培ったFAシステム技術、工場の生産性向上、自動化/省人化に向けたノウハウの活用
- 大手メーカーのスマートファクトリー実現への取組みに向け生産プロセスのソリューション提案
- IoT事業拡大のためのソフトウェア開発力の提供拡大とAI技術の提供

配当予想の修正に関するお知らせ

当社の配当政策は将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

当社は、2019年6月5日に東京証券取引所 J A S D A Q（スタンダード）市場から同取引所市場第二部へ市場変更いたしました。

これもひとえに、株主の皆様をはじめ、関係者の皆様からの温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

つきましては、株主の皆様へ感謝の意を表するとともに、東京証券取引所市場第二部へ市場変更されたことを記念して、2020年3月期の中間配当金において、1株当たり5円の記念配当を実施させていただくことといたしました。

2020年度	第2四半期末	期末（予想）	合計
普通配当	6円	6円	12円
記念配当	5円	—	5円
合計	11円	6円	17円

貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

	前年度末 実績	当第1四半期 実績	前年度末比	
			増減額	増減率
資産合計	2,190	2,176	△14	△0.7%
流動資産	1,956	1,905	△50	△2.6%
現金及び預金	1,238	1,305	66	5.4%
売掛金	688	510	△177	△25.8%
仕掛品	1	51	50	4,561.1%
その他	28	37	9	35.5%
固定資産	234	270	36	15.5%
負債合計	836	896	59	7.2%
流動負債	714	781	67	9.5%
固定負債	122	114	△7	△6.4%
純資産合計	1,354	1,280	△74	△5.5%
負債純資産合計	2,190	2,176	△14	△0.7%

損益計算書 (要約)

9

(単位：百万円)

	前第1四半期 累計実績	当第1四半期 累計実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	937	975	38	4.1%
売上原価	740	761	20	2.8%
売上総利益	196	214	17	8.9%
販売費及び一般管理費	150	171	21	14.4%
営業利益	46	42	△4	△8.6%
経常利益	29	31	2	7.9%
税引前当期純利益	29	31	2	7.9%
法人税、住民税及び事業税	31	35	3	12.3%
法人税等調整額	△21	△24	△3	—
法人税等合計	9	10	0	7.6%
当期純利益	19	21	1	8.1%